



# 岡山県原水協通信

2011年8月22日 No179  
原水爆禁止岡山県協議会  
700-0981 岡山市北区西島田町4-25  
TEL086-244-4526 (F)805-6172  
[kenmin@po5.oninet.ne.jp](mailto:kenmin@po5.oninet.ne.jp)

## ようこそガーソンさん

## 水島原水協で歓迎・ 大会報告会ひらく

8月10日、水島原水協は2011年原水爆禁止世界大会報告会とジョゼフ・ガーソン氏の歓迎会を開きました。昼休み時間を利用しての歓迎・報告集会には80人が参加しました。はじめに里見病院長が昨年のNPT再検討会議での尽力にお礼を言い、民医連病院の創設の理念、平和こそ第一と今年の世界大会に27人を派遣したことを述べられ連帯の挨拶をされました。

ガーソン氏は「核兵器をなくすためには、アメリカの政策が決定的となりますが、その動向はオバマ政権に代わってもなんら変化がなく、軍事費は毎年国家予算の60%を占めている」「草の根の運動の連帯を」と呼びかけられ東日本大震災への哀悼の意を述べられました。



世界大会報告では、広島にPPOの仲間として参加した23名を代表して、歯科診療所技工士の茅原哲也さん、医療事務の西崎緑さん、放射線技師の藤原早苗さんが被爆者訪問の体験を報告しました。

西崎さんは被爆者の話を初めて聞いて「私がこれからしなければいけないことは次の世代に伝えること。被爆者の方から直接聞ける最後の世代として戦争を知らない子どもたちに伝え、二度と戦争が起こらないよう行動していきたい」と報告しました。

写真 左・報告会に参加した皆さん  
上・ジョゼフ・ガーソン氏 (8/10 水島協同病院)

## 「憲法9条のもと 真の独立国に」

## 伊東倉敷市長と懇談

8月10日、ジョゼフ・ガーソン氏は倉敷市の伊東香織市長を表敬訪問。午後3時、倉敷市を訪問したガーソン氏を伊東市長は笑顔で出迎え、和やかに懇談しました。冒頭、伊東市長は歓迎のこととともに、世界平和市長会議に参加したこと、広島、長崎の惨状を子どもたちに伝えるために毎年「平和訪問団」を派遣し、被爆者を招き「被爆体験を聞く学習会」を実施していることなどを紹介しました。

ガーソン氏は伊東市長の平和に対するリーダーシップをたたえ、アメリカにおける平和運動の現状を述べられ、「日本が憲法9条のもとで本当の意味で独立した国になってほしい」と訴えられました。

ジョゼフ・ガーソン氏はアメリカフランス奉仕委員会(1917年創設、1947年ノーベル平和賞受賞)ニューイングランド地方の責任者を1976年以來務めています。1984年以降、原水爆禁止世界大会・3・1ピキニデー集会等に参加。2010年NPT再検討会議NY行動の責任者として奮闘されました。



(伊東倉敷市長・左 とガーソン氏 (8/10 倉敷市役所))